

世界遺産

World Heritage

史跡 大船 遺跡

Ofune Site



史跡大船遺跡は、紀元前3,500～紀元前2,000年(5,500～4,000年前)の約1,500年間にわたって営まれた、太平洋をのぞむ段丘上に立地する縄文時代の拠点集落です。

ほかの遺跡に比べて、床を深く掘り込んだ竪穴建物が特徴的で、中には深さ2mを超える大型のものもみつかっています。

1996年以降の発掘調査の結果、沿岸地域における生業と精神文化を示す重要な遺跡であることが証明され、2001年に国の史跡に指定されました。

縄文のたたずまいを体感できる大船遺跡で、縄文文化の魅力にふれてみませんか。

2021年7月に、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産のひとつとして、世界遺産に登録されました。

●所在地 函館市大船町575-1(管理棟)

●供用時間 4月～10月 9:00～17:00

11月～3月 9:00～16:00

●休日 12月29日～1月3日

●利用料 無料

●アクセス バス「大船遺跡下」下車 徒歩10分

●駐車場 無料駐車スペースあり

●問合せ先 函館市縄文文化交流センター

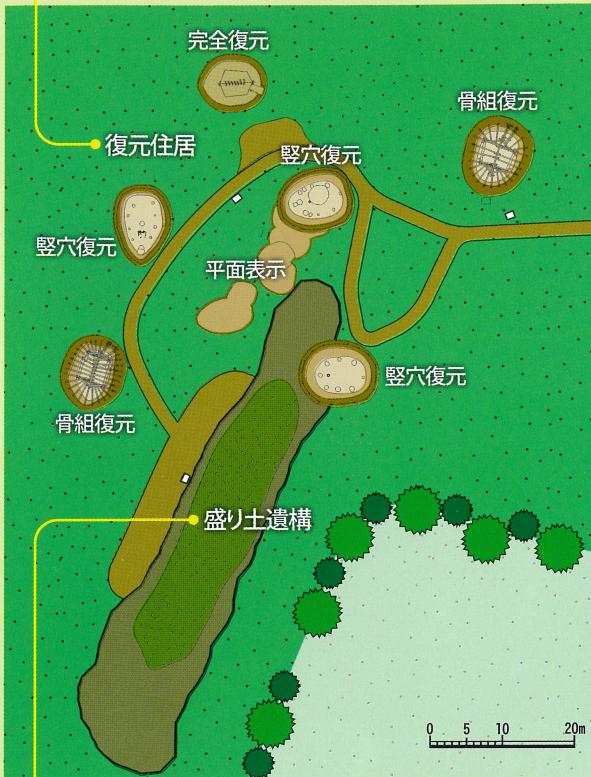
●電話番号 0138-25-2030



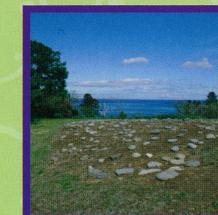
復元住居 Reconstructions of Pit Dwellings

100軒以上の竪穴建物跡を確認した縄文のにわには、完全復元や骨組復元など、多様な竪穴建物を復元しています。

完全復元住居内の見学を希望される方は、スタッフにお声かけください。



盛り土遺構 Earthwork Mound

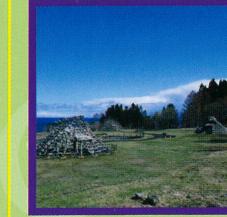


盛り土遺構は、食料の残りかすや壊れた道具などが土とともに大量に積み重ねられたものです。火を焚くなど儀礼の痕跡が認められることから、単なる捨て場ではなく、すべてのモノに宿った魂の「送り場」だったと考えられています。



縄文のにわ Jomon Village

1996年以降の発掘調査で数多くの遺構や遺物を確認した範囲に、復元住居や盛り土遺構などを整備しています。目の前に広がる太平洋への眺望や、遺跡の南側を流れる大舟川のせせらぎなど、縄文時代と同じ風景を体感することができます。



縄文の森 Jomon Forest

クリヤクルミなどの在来種を保護・植樹し、縄文の森として公開しています。春には湖沼でカエルの卵が孵化し、秋にはクリがたわわに実る様子が観察できます。ここでは現在も市民による植樹が進められています。

